

02. 一人で車を運転していたときの怖さ

飯田愛子 70歳 主婦 さいたま市浦和区在住

- どこに誰といましたか。

浦和の中心部にある耳鼻咽喉科の待合室で、15:00 から始まる診察を待っていました。待合室には7-8人いたと思います。地震の揺れがあまりに激しいので、受付の人が外へ出るように言いました。その医院は、木造2階建てで、待合室は1階にあったのです。外へ出ると電線がすごく揺れていて、立ってられないので道路のガードレールにつかまりました。治療が始まったので、花粉症でこんな怖い目に合うとはと、先生に話しました。

- どのように自宅に帰りましたか。

医院を出て駐車してあった車に乗り、自宅に戻ろうとしました。産業道路で信号待ちをしているとき、3回目の揺れがあり、車が左右に揺れ、電線が大きく揺れ、一人で運転しているのがとても怖かったです。でも、信号が青になるとほかの車も走るのでともかく自宅まで帰ってきました。

- 自宅では何か起こっていましたか。

木造3階建の自宅で、退職した夫は庭に出ていて、お手伝いさんが来ている日でしたが、とくに変わりはないようでした。その後変わったことといえば、チャメコという14歳の雑種の雌犬が地震を怖がって食欲もなくなり、一時は痩せてしまったことです。日中は庭にいて夜は家の中で寝ていたのですが、地震の後は夜でも家の中に入ろうとしません。聞くところによると、ペットの地震後遺症は結構多く、動物病院の患者も増えたそうです。

- 最後にひとこと

何といっても、一人になることが怖かった。車に一人で乗っていて地面が揺れたときは一番怖かったです。総じて、地震の発生から帰宅まで、他のことを考える余裕はありませんでした。

2011年6月13日